児童生徒の確かな力を育む学びを目指して

中村くみ子・本間清香・高橋幸・細川絵里加・佐藤佑哉・小原一志*，上濱龍也**
*岩手大学教育学部附属特別支援学校，**岩手大学教育学部

（令和３年３月４日受理）

１　これまでの取り組みと学習指導要領から

前次研究での観点別評価の取り組みを通して，「主体的に活動する姿」の具体的な姿を３観点で整理していくことで学部間に連続性があることが確認された。一方で児童生徒が自分の力を発揮できる場面が広がるようカリキュラム・マネジメントが必要であることが課題として挙げられた[1)]。

新学習指導要領[2)]においては，カリキュラム・マネジメントは，教育課程に基づいて組織的・計画的に教育活動の質の向上を図っていくものとされている。また，教育課程については学習の基盤となる資質・能力及び現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を育成できるように教科等横断的な視点で編成されるものとされている。

これらのことから，児童生徒がもつ力をより多くの場面で発揮できるような確かな力に育てていくためには，教科等横断的な視点をもち，教育課程を編成していくことが必要だと考えた。そこで，学校生活の中心に据えている小学部「遊びの指導」「生活単元学習」，中学部及び高等部「作業学習」には，どのような各教科等の目標や内容が取り扱われているのかを明らかにし，教科別の指導等の学習内容との関連を整理していく。

２　研究の目的

本校の「育成を目指す資質・能力」を明らかにし，教科等横断的な視点で教育課程を見直し，生活場面で発揮できる確かな力の育成を目指す。

３　研究の方法と内容

(1) 小学部「遊びの指導」「生活単元学習」，中学部及び高等部「作業学習」において関連する各教科等の目標・内容の明確化

各教科等を合わせた指導において各教科等の関連を明らかにすることで，児童生徒が何を学んでいるのかを授業者が確認できるよう単元構想シート[3)]を活用することとした。なお，年度当初，単元構想シートは小学部版のみだったので，岩手大学教職大学院に中学部版，高等部版の開発[4)]を依頼し，それを活用することとした。

単元構想シートの作成にあたり，小単元ごとに学習活動を書き起こし，それらがどの各教科等と関連しているのかを授業者間で一つ一つ確認し，共有しながら作成を進めた。また，対象児童生徒については，関連する各教科等の目標・内容を学習指導案にも記載し，授業参観者と共有し授業研究会で話題にできるようにした。

(2) 授業研究会の実施

「授業づくりの視点」に基づいて実践された授業について，各学部３回の授業研究会を実施した。そのうち，１回は全校授業研究会とした。さらに今年度初の試みとなるが，全校授業研究会を公開授業研究会とし，県内特別支援学校や近隣の小中学校特別支援学級の教職員と授業づくりについての意見交換の場とした。なお，全校授業研究会を公開したのは２回である。（表１）

授業研究会では，「授業づくりの視点」に基づいて授業について振り返り，授業づくりについて意見交換を行った。また，学習指導案に掲載された関連する各教科等の目標・内容について，またはそれ以外にも関連が考えられるものについて意見交換を行った。

表１　授業研究会を実施した授業実践

	学習グループ・単元名
小学部	◎※たんぽぽ組（１・２年）遊びの指導 キラキラひろばであそぼう！ ○すみれ組（３・４年）生活単元学習 すみれのおまつりをしよう ○つくし組（５・６年）生活単元学習 ピザを作って食べよう
中学部	○石けん班　作業学習 作業Ⅲ　校内で注文販売をしよう ～みんなで石けん 180 本を作ろう～ ◎※クラフト班　作業学習 作業Ⅶ　注文販売をしよう③ ～みんなで「くまさんシリーズ」と「みにーわ」を作ろう～ ○園芸班　作業学習 作業Ⅲ　校内で注文販売をしよう ～ラベンダーポプリを 89 個作ろう～
高等部	◎木工班　作業学習 附特ベンチシリーズを作ろう ～注文販売をしよう～ ○手織班　作業学習 織物製品を作って販売しよう ～あにわ祭販売会～ ○陶芸班　作業学習 いろいろなお皿やカップを作ろう ～２月ガンフ工房販売会で販売しよう～

※○は学部授業研究会，◎は全校授業研究会，
◎※は公開授業研究

(3) 各教科等を合わせた指導（小学部「遊びの指導」「生活単元学習」，中学部及び高等部「作業学習」），及び各学部において「育成を目指す資質・能力」の検討

授業研究会や学部研究会の場で小学部の「遊びの指導」「生活単元学習」，中学部及び高等部の「作業学習」において「育成を目指す資質・能力」や，各学部において「育成を目指す資質・能力」について話し合いを行った。

１回目の全校授業研究会では全校で高等部の「作業学習」において「育成を目指す資質・能力」について話し合った。卒業後の生活にどんな力が必要なのか，学校に在籍しているうちにどのような力を身に付けることが大切なのかを自由に出し合い，出されたキーワードを基に高等部で検討した。

公開授業研究会となった２回目の全校授業研究会では中学部「作業学習」，３回目は小学部の「遊びの指導」「生活単元学習」において「育成を目指す資質・能力」の学部案をグループ協議の中で検討した。その中で出た意見等を基に再度学部で検討を重ねた。

(4) カリキュラム・マネジメント

児童生徒の学びがつながるように，学校生活の中心に据えている小学部の「遊びの指導」と「生活単元学習」，中学部及び高等部の「作業学習」と各教科等で取り扱う学習内容や時期の整理を行うことを全校研究会で確認した。

４　結果

(1) 各教科等を合わせた指導における各教科等の関連について

初めは，関連する各教科等の目標や内容の洗い出しという意味で単元構想シートの作成に取り組み始めた。しかし，作成を進めるうちに，児童生徒の実態によって学習のねらいが異なることから同じ学習活動であっても関連する各教科等の目標や内容は異なるということが話題に上がるようになった。表２は，小学部で実際に作成された単元構想シートの一部分である。表３に単元構想シートに書き出された国語科の目標・内容を示した。

児童Ａは，教師からの簡単な指示が分かり，指さしや簡単なサインで答えることができることから，スライドでペアの友達を確認した後，「誰と一緒に作りますか。」という教師の問い掛けにペアの友達を指さして答えるなどして学習することをねらっている。児童Ｂは平仮名を読み，言葉で簡単なやり取りをすることができるため，スライドでの活動内容の確認では，平仮名を読んだり，知っていることや考えたことを話したりしながら学習することをねらっている。このように実態に応じて学習のねらいが異なるため，関連する国語の内容がすべて同一とはならなかった。これは，単元構想シートを活用することで各教科等の視点を踏まえつつも「何を学ぶのか」という児童

生徒個々の学びについて考えたことの現れであると言える。

表２　単元構想シート作成例

期間時数	7月 1日　～ 7月 2日(2時間)					
小単元名（活動名）	スライドを見よう 作ってみよう					
児童名	主な学習活動	各教科等の内容				
Aさん（3年・男）	・スライドを見る。 ・写真やイラストを選ぶ。 ・自分の係を知る。 ・ペアの友達を知る。 ・ゲームの道具作りをする。	生活	37	43		
		国語	**41**	**60**		
		算数				
		音楽				
		図工	1			
		体育				
		自活				
		道徳				
		特活				
		外国				
Bさん（3年・男）	・スライドを見る。 ・写真やイラストを選ぶ。 ・自分の係を知る。 ・ペアの友達を知る。 ・ゲームの道具作りをする。	生活	37	43		
		国語	**14**	**38**	**41**	
		算数				
		音楽				
		図工	1			
		体育				
		自活				
		道徳				
		特活				

表３　国語科の内容

	内　容
14	日常生活でよく使われている平仮名を読むこと。
38	教師の話や読み聞かせに応じ，音声を模倣したり，表情や身振り，簡単な話し言葉などで表現したりすること。
41	身近な人からの話し掛けに注目したり，応じて答えたりすること。
60	教師と一緒に絵本などを見て，示された身近な事物や生き物などに気付き，注目すること。

また，この単元では算数に関連するボウリングに取り組んだ。教師は倒れたピンを数えることを促す際に「いくつ」「何個」ではなく「何本倒れたか数えよう」と単位を意識しながら声を掛けたことから，教師が支援について考える機会にもなっていたと考えられる。

その一方で単元構想シートを作成する上で関連する各教科等の内容に必然性があるのかを確認することや教科の内容を不自然に組み入れないように留意していくことがたびたび話題になった。

(2) 関連する各教科等の内容を踏まえた各教科等を合わせた指導の授業づくり

単元構想シートを作成する際に関連する各教科等の内容について，授業者間で話し合い，共有し，授業実践を行った。そして，授業研究会で関連する各教科等の内容について話題にすることで，参観者が見た児童生徒の姿から関連する各教科等の目標や内容について多くの意見が出た。それらについて意見交換することで各教科等の視点を学ぶ場となった。

公開授業研究会を行った中学部「作業学習（クラフト班）」では次のような意見が出た。

・作業日誌の活用により，自分で作業の確認ができたり，目標数が明記されており見通しをもつことができたりすることから，職業・家庭（職業分野）の「A職業生活」の中学部１段階及び２段階に示されている「ア　働くことの意義」につながるのではないか。

・クラフト班は機械音の大きい環境での学習となる。言語でのやり取りができる生徒であっても相手の声を聞き取ることが困難である。その状況から表情やサインから相手の意図を汲み取ることは自立活動の「人間関係の形成」「コミュニケーション」にも関連するのではないか。

授業者とは異なる視点で出された関連する各教科等の内容を共有することで，今後の授業づくりの際の参考になると考える。

(3)「育成を目指す資質・能力」についての検討

これまでの本校の授業づくりを踏まえ，それぞれの学習のねらいや単元目標は「主体的に活動する姿」とし，「育成を目指す資質・能力」は「主体的に活動する姿」を実現するために「必要な力」であるということを全校で確認した。小学部は「遊びの指導」と「生活単元学習」，中学部及び高等部は「作業学習」において「育成を目指す資質・能力」について学部研究会や全校研究会の場で検討を行った。その際に，具体的な児童生徒の姿を出し合ったり，その学習で何を学んでほしいのか，どんな力を身に付けてほしいのかなどについて意見交換したりすることができた。その後，

表４　各学部において「育成を目指す資質・能力」

	小学部	中学部	高等部
知識及び技能	学校生活の様々な活動や役割が分かり取り組む。	これまでの経験を基に活動内容や自分の役割が分かり取り組む。	目的や内容，役割が分かり，自分の力を発揮しながら精いっぱい活動する。
思考力・判断力・表現力等	自分で考え，選択し，自分なりの手段で思いを伝えながら取り組む。	仲間とともに活動する中で，自分で考えたり，思いを伝え合ったりする。	よりよく活動するために自分で考え，判断し，伝え合いながら活動する。
学びに向かう力・人間性等	様々な経験をし，好きなことや得意なことを増やしながら，みんなと楽しく取り組む。	仲間と協力し，やりがいを感じながら存分に取り組む。	自分から取り組み，仲間とともに，最後まで活動する。

表５　小学部「遊びの指導」「生活単元学習」において「育成を目指す資質・能力」

	遊びの指導	生活単元学習
知識及び技能	遊具や遊び場の使い方や体の動かし方が分かる。	活動内容や役割，体や手指の動かし方が分かり活動する。
思考力・判断力・表現力等	まねや工夫をして，友達や教師と一緒に遊ぶ。	選択や工夫をしたり，思いや考えを伝えたりしながら活動する。
学びに向かう力・人間性等	楽しく，自分から，繰り返し遊ぶ。	楽しく，進んで，最後まで活動する。

表６　「作業学習」において「育成を目指す資質・能力」

	中学部	高等部
知識及び技能	作業内容や手順・役割が分かり作業する。	手順や道具・用具の使い方が分かり，丁寧に，正確に，精いっぱい作業する。
思考力・判断力・表現力等	自分で考え，確認し，伝えながら作業する。	よりよく作業するために自分で考え，判断し，働く仲間と確認や報告しながら作業する。
学びに向かう力・人間性等	仲間とともに，目標に向けて作業する。	自分から作業に取り組み，働く仲間とともに，最後まで作業する。

各学部において「育成を目指す資質・能力」についても検討を行った。検討した「育成を目指す資質・能力」を表４から表６に示す。

(4) カリキュラム・マネジメントの実施

小学部, 中学部は次年度の学習グループや単元内容が決定してから, 検討及び整理を進める。高等部は「作業学習」に関連する各教科等の内容を「トライ学習（国語・数学)」でどのように扱っていくのかという検討を始めたところである。

５　１年次のまとめ

(1) 成果

①各教科等との関連を踏まえた各教科等を合わせた指導の授業実践

・各教科等を合わせた指導には多くの各教科等の目標・内容が関連していることが確認できた。
・児童生徒個々の目標や支援について各教科等の視点を踏まえて考えることができた。
・私たち教師が各教科等の視点を学ぶことができた。

②「育成を目指す資質・能力」の明確化

・授業において育てたい力について共通理解を図ることができた。
・教師間の学習観や児童生徒観を共有することができた。

(2) ２年次に向けて

①カリキュラム・マネジメントの実施

それぞれの学習について学習内容, 時期, 期間などを児童生徒の学びが学校生活の中でつながるように検討及び整理し，配列していく。

②「育成を目指す資質・能力」を踏まえた授業実践

本校における「育成を目指す資質・能力」について全校で共通理解を図り, それを踏まえた授業実践を行う。「主体的に活動する姿」を実現するために

必要な力である「育成を目指す資質・能力」が身に付いたのか，また，どのように育成されていくのかを話題にしていきたい。

６　おわりに

これまで本校では「主体的に活動する姿」を目標とした授業づくりに取り組んできた。本研究に取り組むことで，そこに各教科等の視点が加わった。それにより，児童生徒が何を学んでいるのかが明らかになり，児童生徒個々の目標がより具体的になり，有効な支援について整理され，より一層「主体的に活動する姿」につながる授業づくりになってきていると感じている。

２年次となる次年度は，児童生徒の学びがつながるように整理，配列された指導計画を基に「育成を目指す資質・能力」を踏まえた授業実践を進めていく。その中で児童生徒がいつでもどこでも誰とでも発揮できるような「確かな力」の育成を目指していきたい。

文　献

１）中村くみ子・昆亮仁・山口美栄子・高橋幸・伊藤慎悟・阿部大樹・上濱龍也(2020)：児童生徒一人一人が今，主体的に活動できる授業づくり ―観点別評価の取り組みを通して―. 岩手大学教育学部プロジェクト推進支援事業教育実践研究論文集, 7, 1-6.

２）文部科学省（2017）：特別支援学校 幼稚部教育要領　小学部・中学部学習指導要領

３）田淵健・佐々木全・東信之・阿部大樹・田口ひろみ・中村くみ子・岩崎正紀・藤谷憲司・上濱龍也，最上一郎，名古屋恒彦（2020）：育成を目指す資質･能力を踏まえた各教科等を合わせた指導の授業づくりの要領の開発－特別支援学校小学部におけるアクション・リサーチから－
岩手大学教育学部プロジェクト推進支援事業教育実践研究論文集，7，135－140.

４）田淵健・原田孝祐・佐々木尚子・大森響生・中村くみ子・藤谷憲司・髙橋幸・本間清香・細川絵里香・佐藤佑哉・小原一志・東信之・佐々木全（2021）：育成を目指す資質･能力を踏まえた「各教科等を合わせた指導」の授業づくり要領（２）－知的障害特別支援学校中学部・高等部を対象とした「単元構想シート」－
岩手大学教育学部プロジェクト推進支援事業教育実践研究論文集（投稿中）